



問い合わせ先

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
内線303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
七城公民館図書室 日曜日・祝日
旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書のイベント情報は、32ページの行事予定へ掲載しています。



中央公民館図書室の中で本の検索ができるようになりました。画面に触れるだけで操作ができますので、ぜひお試しください！(中央公民館図書室)

新着・お薦め図書

風の又三郎

私たちのおすすめする本は、風の又三郎です。この物語は、ある少年「又三郎」が転校してくるところから始まります。又三郎が何かをする、雨が降ったり風が吹いたりして、雨の降ることを、クラスの友達は、最初はこわがったり不思議に思ったりしていました。しかし、寒いときに暖かい風を吹かせ、暑いときには涼しい風を吹かせてくれる又三郎と、友達はだんだんなかよくなっています。



田村宙輝さん(左)
田中美沙希さん(右)
(菊之池小6年)

宮沢賢治作

彼の書いた本を読みました。宮沢賢治は自分でも農業に取り組みました。彼は農業にとって風や雨は敵になることがあるので、自由にやりたいと考えていたと思います。又三郎と宮沢賢治の生き方を重ねて読んでみると、また楽しめます。



渡辺海門さん(左)
宮本浩樹さん(右)
(菊之池小6年)

注文の多い料理店

ぼくたちのおすすめする本は、宮沢賢治の注文の多い料理店です。この本は、宮沢賢治の童話集の中の一つです。この童話は二人の若い紳士が山で迷い、その山の中で西洋料理店「山猫軒」を見つけたところから始まります。おなかをすかせていた二人は、喜んで店に入っていきます。しかし入り口から続く長い廊下を歩いていくと、次々とびらが現れるのです。それぞれのとびらには、「帽子と外套と靴をお取りください」とか「服の泥を落としてください」など、いろいろな注文が書かれています。そして最後のとび

宮沢賢治作

らの前に立つと、中から何やら声が聞こえてきました。その話を聞いて二人の紳士は大変なことに気づくのです。この話になぜ、「注文の多い料理店」という題をつけたのか、考えながら読むとおもしろいです。ぜひ、読んでみてください。

耳より情報

図書館のホームページができました

菊池市図書館のホームページを開設しました。ホームページから泗水図書館・各公民館図書室の蔵書検索や開館情報、イベントの確認などができます。随時、新着図書も紹介する予定です。自宅からも本の検索ができるようになりましたので、ぜひご利用ください。

市内には泗水図書館と中央・七城・旭志の公民館図書室があります。この機会にそれぞれの館に出かけてみませんか？

ホームページアドレス www.kikuchi-lib.jp

おはなし講座(その3)

「お話・ストーリーテリングのたのしみ」

今回のおはなし講座では、熊本の昔話絵本「ぼんざらや」の出版や緑のリボン賞受賞などで活躍している志岐有子さんをお招きします。

文庫活動や読み聞かせ活動を続けていくことの大切さ、楽しみ方などをテーマに講座を行います。気軽に参加してください。

と き 3月19日(土)午前10時30分～

講 師 志岐有子さん(泗水図書館)

肥後狂句水笑会 1月例会

今年こそ 禁酒禁煙はまろうか
柏原 乗仏
ゆくゆくは 白寿手にする気色です
続 義昭
根比べ ママはどっちになびくどか
井出 水光
ゆくゆくは 結婚さすんじゃないかな
御手洗三代
正直者 税のやすくて腹かかす
山隈 好茶

肥後狂句桜会 1月例会

丸もうけ 誤診でおりたガン保険
狩野 本六
のぞまれて 同居したつが甘かった
窪田 明徳
あたしだって 後家で終わると思とらん
田中 孝幸
言いたい放題 嫁は黙って聞くばかり
田中レイコ
まがいもん フツと笑わす鑑定士
田尻 浩風

万句の里俳句会 1月句会

大どんど火災一気にかけ昇り
宮本 雅子
少年の夢かける絵馬明の春
林 まつ子

臘梅のあふれる香に雲晴れし
富田 幸子
滝凍てて音というもの失なへり
松永 久子
拝殿の庇より落つ霜雫
中路 郁子

せせらぎ俳句会 1月例会

新年やプラス思考で八十路坂
寺本 和子
見せ合ふて互ひに笑顔初みくじ
五丁 義昭
習はしの只なつかしき寒夜かな
村山 数恵
祖父と孫共同作業の雪うさぎ
藤本アツ子
餅つきの快音響く祖父母の家
渡辺 大寿

旭志文芸俳句会 1月詠草

遠望の重なる峰や山眠る
芹川のり子
寒菊や守り暮らすも老二人
芹川 蓉子
冬晴れや大阿蘇見えしうす化粧
水谷 ミネ
物干しの軒端照らすや寒の月
中尾ヨシコ
山茶花の垣根華やか咲き続く
東 芳子

菊池短歌会 1月詠草

灯明を小さく点しひとりごつかくひそやかな行ひもしつ 怒留湯健蓉
三世代集ひし正月束の間に ただ蠟梅の香が残るのみ 村上さき江
幼日の時間が止まって居る様な古里の太き柿の裸樹 山下 菊代
裸眼には眩しき今日の雪景色持てるサンガラス掛けて楽しむ
山代 静子
歩き出すブレーキアクセルまちがへず我にまだある夢追ひかけて
余語やす子

七城短歌会 1月詠草

雪つもる稀なる元朝旗揚ぐる我生かされて卒寿を迎う 松岡みちえ
婆ちゃんに逢いに来たよと帰省せし孫の温き手今も忘れぬ 木下 陽子
雪つもる庭に数本万両の深紅の房実初春祝う 吉間 充子
群れなして川面に顔を洗う鴨ふといさぎよく羽ぶき飛びたつ
緒方 寛子
新春の部屋を華やぐポインセチア花さながらの真つ赤に葉の燃ゆ
岩津 涼子



高齢者大学 1月歌会

平凡な生活の幸を忘れずにまた新しい年に向はむ 岩木タエ子
元旦の雪積む庭に四方拝世の禍の無きこと願ふ 北村 玉恵
霜の朝植ゑし野菜を見に行きて伸びゆく様に力湧き来る 中村トメ子
夫逝きし彼の日も降りし白雪の積み悲しき今日一周忌 中津 ツユ
古の春日祭とふ元日のテレビ見てをりしみじみひとり 中原 光子

おわびと訂正

広報きくち2月号に掲載しました里短歌会で誤りがありました。正しくは次のとおりです。おわびして訂正します。
誤 山城 静子
正 山城 雅子